

## 新卒教師 3年生の学級経営

—子どもが生き生きとする学級を目指して—

東久留米市立第三小学校 泉 浩 子

### 最初の3日間が勝負

始業式の日、子どもたちと初めての出会う。78個の瞳がこちらに向けられた。最初の印象が大事、と勝負をかけ明るく自己紹介をした。その後、「〇〇さん、と呼ばれたら、はい！〇〇〇〇です。」と元気に応えるように指示し、子どもたちの出席をとった。子どもたちは緊張しながらも、一生懸命返事をした。いよいよだな、と気合いが入った。10分ほどのわずかな時間だった。

次の日、最初から5時間授業だ。新しいクラスとなり落ち着かない子どもたちは、「先生、〇〇はどうすればいいですか。」との質問を繰り返す。このことだな、と私は思った。最初の3日間で、学級のルールを確立していくことの大切さを先輩に聞き、様々な本を読んでいたので。そこには、「子どもたちが一番話しを聞く最初の3日間が勝負だ。その3日間で学級のルールを確立せずに個々に対応していると、『先生、〇〇くんの時はいいと言っていたのに、どうしてだめなんですか。』のように、少しずつ不満が募ったり、今までのルールをもとにそれぞれ違ったルールを作り出してしまう場合もでてくる。そして、だんだんと混乱が生じ、学級崩壊が起こる。」といった趣旨のことが書かれていた。

子どもたちが安心して学校生活を送っていくためには、どんなルールが必要なのだろうか。例えば、次のようなものがある。

- ・係活動
- ・掃除や給食などの当番活動
- ・朝の会の進め方
- ・帰りの会の進め方
- ・日直の仕事内容
- ・忘れ物をしたときの対処法
- ・宿題の提出の仕方
- ・座席の決め方
- ・生活班の決め方
- ・発言のルール
- ・挙手の仕方
- ・話しを聞く姿勢
- ・教科書を読むときの姿勢

### ルールを徹底するときの注意

- 必ず、全員に徹底する。
- 前年にはどのようにやっていたかを聞き、子どもたちと一緒にルールを決める。
- 決めたルールを実行できたら細めにほめ、徹底するまで貫く。

次に、朝の会・給食・帰りの会の司会の原稿を紹介する。

### 【朝の会】

〔日直の仕事〕

- ・教室を移動するときに電気を消す。
- ・朝の会・給食・帰りの会の司会をする。
- ・「さよなら」の後に、落し物確認、つくえ・イスのせいりをする。

- ・これから、○月○日、○曜日、朝の会を始めます。
- ・立ってください。
- ・おはようございます。今日もよろしくお願いします。
- ・すわってください。
- ・けっせきはいませんか。  
あった時⇒ けっせきの人へのれんらくは○○さんです。
- ・昨日のピックニュースです。昨日の日直さん、お願いします。
- ・今日の時間割は、1時間目○○、2時間目○○、……5時間目○○です。（今日の時間割を伝える。）
- ・今日のことで質問はありませんか。
- ・今日のていしゅつ物は○○と○○です。出していない人は出しましょう。
- ・先生からのお話しです。
- ・以上で、朝の会を終わります。
- ・1時間目のじゅんぴをしてください。

### 【給食】

- ・じゅんぴができている班からよびます。（れんらくちょうの記入・読書はOK）
- ・○○班どうぞ。○○班どうぞ。
- ・日直の給食は、○○さんと、△△さんお願いします。
- ・今日のメニューは、……と、……です。
- ・しせいをただして、いただきます。（12：40）
- ・食べきれない人はもどし、少ない人はふやしに来てください。
- ・かたづけの用意をしてください。（13：05）
- ・ごちそうさまをします。（13：10）
- ・しせいを正して、ごちそうさまでした。

### 【帰りの会】

- ・これから、○月○日、○曜日、帰りの会を始めます。
- ・今日のお休みは○○さんです。お休みの連絡はできていますか。連絡帳を届ける人は誰ですか。△△さん、お願いします。
- ・今日、班ノートを書く人は手をあげてください。（10人を確かめる。）
- ・先生からのお話しです。
- ・明日の日直は○○さんと△△さんです。以上で、帰りの会を終わります。
- ・立ってください。今日も一日、ありがとうございました。

さようなら。

【児童理解のための実践】

① 班ノート～学校では見られない児童の実態を知るチャンス！～

ねらい—書く意欲を高め、書く力をつける・友だちのことを知り、信頼関係を築く・教師、保護者が子どもたちの日頃考えていることを知る。

実施の仕方

- ・以下のことを子どもたちが行い、朝の会までに提出する。
- ・教師がその日のうちに読み、コメントを記入する。
- ・帰りの会で次の児童に配布する。

〔書くこと〕

1. 書いた人の名前
2. 日付・天気
3. 班の出来事・伝えたいこと・最近のビックニュース、等
4. お家の人から一言

- \*自分の順番がきたら、帰りの会の時に班ノートをもらい、家で書いてくる。
- \*朝、所定のところに提出する。

成果

- ・自分の身近で起きた出来事を読む人に伝えようとする意欲が高まっている。
- ・学校では見られない、子どもの努力や楽しい出来事、考えていることを知ることができるようになった。
- ・班の子どもたちの協調性が生まれ、仲が良くなった。
- ・保護者は、自分の子どもと同じ班の子どもたちのことを良く知ることができ、安心しているとともに楽しんでいる。

② 座席表への気付きの記入～忙しい中でも続けられる記録術～

実施の仕方

- ・子どもたちの授業中の活躍、努力、気になった点をその時間中に記録する。

成果

- ・教師がよく見ている児童とあまり見てあげられていない児童が分かり、その後の指導の仕方を改善できる。
- ・一人ひとりの児童理解が進み、通知表の所見欄に的確な事柄を書くことができる。

③ 週2回のクラス遊びの実施 ～教師は子どもたちのガキ大将に！～

実施の仕方

- ・エンターテイメント係りを中心に、やることやチーム分けをする。
- ・学級会で決めた曜日の中休みに、教師も含め原則として、クラス全員で遊ぶ。

成果

- ・普段、外で遊びたがらない児童が外で元気に遊べる。
- ・子どもと教師が楽しい時間を共有することで、クラスの雰囲気良くなった。

④ 給食の時間、休み時間は児童の中へ ～子どもにとって身近に感じる教師に！～

実施の仕方

- ・給食の時間は、毎日順番に班の中に入り、できるだけたくさん子どもたちと会話をする。
- ・休み時間は、職員室には行かず、外で一緒に遊ぶか、子どもたちと一緒にクラスの仕事などをする。

成果

- ・子どもたちの大好きな給食の時間や休み時間を共に楽しく過ごすことによって、教師と児童の信頼関係が生まれ、自分から教師に話しかけることのできない児童も自然に話しができるようになった。

【学習ルール】

① 挙手は声を出さずに

授業の中で、子どもたちに発言を促す機会は多くある。ルールを決めなければ、子どもたちは勝手にしゃべりだすようになる。声を出さずに、きちんと挙手ができた児童をほめ、定着するまで徹底し続ける。

② 聞く姿勢

「手」と「目」と「背」を意識させる。それらがどうなると話をよく聞くことができるのかを徹底する。「〇〇さん、背すじがしっかり伸びていますね。」「〇〇くん、目がしっかり先生の方に向けられていますね。」など、具体的にほめ、他の子どもたちに何がよいのか気づかせる。

③ 発表する時は座ったままで

全員の子どもの発言させるために、少しでも緊張をさせないようにする。

【学級経営の工夫】

① 朝の会での1分間スピーチ ～話す力を育むために～

最近のビッグニュースなどをスピーチする。(いつ・どこで・だれと・どのように)

② 班での話し合いを頻繁に ～協調性を育むために～

班のめあてやリーダーの仕事、学級の問題点などについて頻繁に話し合わせ、

③ 全員リーダー制 ～主体性を高めるために～

子供たちの主体性を高めるために一人一役を実践している。班の運営は全員の責任のも

とで行われる。

- ④ ちょっとした時間にゲームを取り入れる ～子どもたちを喜ばせるために～  
子どもたちは楽しいことが大好きだ。学級でできるゲーム集などを利用し、準備をしなくても気軽にできるゲームを、ちょっとした時間に取り入れている。教師が考える以上に盛り上がる。以下に、私の学級でよく行うゲームを紹介する。

#### 【リーダーの仕事】

##### 《班リーダー》

- ・グループの活動を中心になって進める。
- ・お昼に連絡帳が書けているかをチェックしOKサインを書く。
- ・班ノートがかけているかチェックをする。

##### 《学習リーダー》

- ・手紙やプリントを取りに行き、くばる。
- ・家庭数を取りにいき、くばる。
- ・テストやプリントを集める。
- ・学習準備の手伝いをする

##### 《そうじリーダー》

- ・そうじがよりきれいに・速く終わるようにリーダーとなって進める。
- ・そうじの反省会の司会をする。
- ・そうじが終わったら、先生に報告する。

##### 《給食リーダー》

- ・給食前に班のつくえの移動・手洗い・ちやくせきを指示する。
- ・給食前に班のつくえをふく。
- ・給食当番の時は、リーダーとなってそつ先して進める。
- ・班全員が給食を残さなかったら、チェック表に色をぬる。

#### 【学級びらきにもってこいのゲーム】

##### ★並びっこゲーム

##### 〔遊び方〕

- ① ランダムに男女混合の班を決める。(5人から6人)
- ② 教師の言う条件に合わせて班で1列に並ぶ。並び終えたら座る。  
条件の例は、「背の高い順」「誕生日の早い順」「給食の食べるのが早い順」など。  
子どもたちはワーワー言いながら並ぶ。
- ③ 全部の班が並び終えたら、「1位2班」「2位……」というように発表していく。

##### 〔遊びのポイント〕

- ① 教師は子どもたちの並ぶ様子を観察しながら、リーダーになっている子どもや配慮が必要な子どもを見つけていく。
- ② 早く並んだ班を「すごい！○○君がみんなに聞きまわっていたから、早く並べたね」などといったように評価し、他の班へのヒントとする。
- ③ ある程度1位が固定化する場合には、「チャンピオン席」を設けて、1位の班を1回休みにするとよい。

【席がえの直後にもってこいのゲーム】

★相性びったんこゲーム

〔遊び方〕

- ① 隣りどうして背中合わせに立ち、腕を組んでおく。教師の合図で、かけ声「相性びったんこゲーム、いっせーの、せっ!」「いっせーの、せっ!」と言いながら、同時に左右どちらかに首をふりむかせる。
- ② これを続けて3回行う。
- ③ 3回とも二人が同じ方向に向けたら「大吉」、2回だったら「中吉」、1回だったら「小吉」というふうに言葉を決めておき、遊びの最後に「今日、相性びったんこ3回だったペアは手を挙げて。」とまとめる。

〔遊び方のポイント〕

- ① 偶然の一致が面白い遊びなので、前もって打ち合わせをさせないようにする。そのためにもテンポよく進める。
- ② 最後のまとめのときに、拍手や歓声があがるよう盛り上げていくと、学級全体で一体感が出てくる。かけ声のバージョンを変えるのもよい。

【授業の導入に役立つ遊び】

★リズム肩たたき

〔遊び方〕

- ① 教師が右手をグーにして自分の左肩をたたきながら、「さあ、いっしょにあわせてやってみよう」と、7回たたく。次は、左手をグーにして右肩を7回トントントン。次はまた右手にもどって6回、左手で6回。右手で5回、左手で5回。以下順々に肩たたきの回数を1回ずつ少なくして、最後は右手で1回、左手で1回。
- ② 途中で「あれ、まだ肩たたきの法則に気づかない人がいますね。では、もう1度はじめからみんなでやってみましょう。せーの。」
- ③ 終わったら、「ああ、気持ちがよくなったね。頭の血のめぐりもよくなった。さあ、今日の勉強を始めましょう。」

〔遊びのポイント〕

- ① 教師が、はっきりとリズムよく、大きく動作を示す。
- ② みんなで「1 2 3 4 5・・・」と声をそろえてたたくようにする。  
最初はゆっくりとたたいて、子どもたちがまねしやすくする。しだいにテンポを早めていくとおもしろさが増す。最後の「1, 1」は、手も口も、超早くおこなうと、どっと笑いがおこる。

## 授業で勝負！

### 国語科研究の実践

以下、初任者研修の研究授業の実践から、国語の指導案・教材研究の方法などを紹介する。

### 国語科学習指導案

平成17年 11月 22日 5校時

東久留米市立第三小学校 3年1組

男子21名 女子18名 計39名

指導者 泉 浩子

#### 1 単元名 「お祭り事てん」を作ろう (東京書籍 つな引きのお祭り)

#### 2 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
① お祭りに関心をもって、進んで調べて書こうとする。 ② 「つな引きのお祭り」で読み取ったことを、お祭り事典づくりに生かそうとする。	① 文章の要点をおさえながら、内容を正しく読みとることができる。 ② 段落の中心となる語や文をとらえてワークシートに記入することができる。	① 調べたことについて、必要のある事柄かどうかを考えて書くことができる。 ② 書こうとする事柄の中心を明確にしなが構成を工夫することができる。	① 段落の関係を示す手がかりとしての、指示語や接続語の役割を理解することができる。

#### 3 単元について

##### (1) 児童の実態

○単元、「知ってほしいな自分のこと」、「出来事を伝えよう」、「わたしのお気に入りの場所」では、伝えたいこと、調べたことを、中心をはっきりさせて書く学習をした。そのため、多くの児童がはじめ・中・終わりの文章構成は理解できている。

〔課題〕教材文の読み取りで学習したことを書く学習活動に結び付けられない児童が多い。

○9月より、3、4人の班で、班ノート（伝えたいこと・ビッグニュース等を書くノート）を始めた。自分の伝えたいことを読む人に伝えようとする積極的な姿勢が育ってきた。

〔課題〕中心となる事柄がはっきりせず、ずらずらと文章を連ねている児童が多い。

○「読書がんばりカード」の実践により、多くの児童が1000ページ読破に意欲的に取り組んでいる。

##### (2) 単元設定の理由

以上のような児童の実態をふまえ、児童には、調べたことから必要となる事柄を選択し、中心を明確にして書く力をつけてほしいと考える。その力をつけるためには、参考となる文章を読み、どのような書き方をすると読む人に伝わりやすいのか、を理解することが重要となる。

本教材「つな引きのお祭り」は、全体が「はじめ」「中」「終わり」の三つに分かれてい

る。そして、「中」には、秋田県刈和野、沖縄県真栄里などの三つの綱引きが紹介されていて、それぞれの綱引きは、「あらまし」「準備」「綱引きの様子」「由来」の順に紹介されている。どのお祭りについてもこの四つの内容が同じ順番で取り上げられているため、文章構成が分かりやすい。このことから、本教材は、読み取りの授業で学んだ書き方を、お祭り事典に十分に生かしていけると考える。

さらに、各地の「つな引きのお祭り」にはいのりやねがいがこめられている。それを読み取ることで、昔の人の考えていたことや願いを知ることができる。自分が調べるお祭りについても、どんないのりやねがいがこめられているかに関心をもたせたい。

(3) 学ぶ喜びを見出し進んで取り組む子を育成するために

○ 文章構成を楽しく学習—色別の読み取りカードの利用

読み取りでは、場面ごとに色別の読み取りカードを使い、段落の中心となる語句や文をとらえていく。そのまとめでは、読み取りカードを1枚のシートに貼り付け、全体の文章構成を視覚的にも分かりやすく理解できるようにする。

○ 既習事項を生かすための工夫—大きなカラフル文章構成図

出来上がった文章構成図の拡大したものを教室に掲示することにより、既習事項を生かしてお祭り事典を書く意識を高める。

○ 自ら探り当てる環境作り—図書館の集団貸し出しの利用

未知のものが大好きな子どもたち。図書館の集団貸し出しを利用し、お祭りに関する図書を数多く集め、お祭り事典を書こうとする意欲を高める。

○ 主体的な取り組みにするための工夫—振り返りカード

振り返りカードを書くことによって、学習したことを定着させ、主体的に学ぶ姿勢を育てる。

(4) 評価の工夫 観点別評価のために

評価の観点	「おおむね満足……」「十分満足……」状況を判断するための児童の実態	重点
国語への関心・意欲・態度	・ お祭りに関心をもち、「つな引きのお祭り」を楽しみながら読んでいる。	
	・ 発表する目的をもって、進んで図書や資料を探して読もうとしている。	
	・ 「つな引きのお祭り」で読み取ったことを、お祭り事典に生かそうとしている。	○
読む能力	・ 祭りについて読み取ったことを、段落の中心となる語や文をとらえて読み取りカードに記入している。	○
	・ 段落と段落の関係を押さえるなどして、文章の内容を正しく読んでいる。	
	・ 調べたことが書かれている図書資料を見つけて、大事なところを選んで読んでいる。	
書く能力	・ 調べた多くの情報の中から必要となる事柄を選択して、わかりやすくまとめている。	○
	・ 伝えたい事柄について中心をはっきりさせて、事典の説明などを書いている。	
言語についての知識・理解・技能	・ 文のつながりを考えながら、接続語などの役割を理解している。	
	・ 「お祭り事典」を作るとき、言いたいことがはっきりするように指示語や接続語を使って書いている。	○



- アンダーラインのように到達している場合は、「十分満足できる」状況と判断し「A」、その他の到達については、「B」、到達していない状況では「C」とする。
- 重点欄の「○」印は、本單元における観点別評価の重点を示す。

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

刈和野のつながりについて、中心となる語句や文をとらえることができる。

##### (2) 学習活動と展開

学習活動	教師の支援・留意点（・）・評価（□）
<p>●刈和野のつながりについて書かれている形式段落③～⑥のところを音読する。</p>	<p>・形式段落ごとに指名読みをする。</p> <p>・段落ごとに、つながりのお祭りの何のことにについて書かれているかを考えながら読むようにする。</p>
<p>それぞれの段落には何のことにについて書かれているでしょうか。 ～手がかりとなるキーワードを探そう～</p>	
<p>●形式段落③のキーワードを探し発表する。</p>	<p>・③段落のキーワードを考え、意見交換する中でその探し方を理解させる。</p>
<p>●形式段落④～⑥のキーワードを探し、○で囲む。</p>	<p>・なかなか探せない児童には、前時までのキーワードをどのように探してきたかを考えさせる。</p>
<p>●○で囲んだところを段落ごとに発表する。</p>	<p>・意見交換をし、何について書かれているかを読み取らせる。</p> <p>・キーワードの、正しいところに赤○をつけさせる。</p> <p>・本文のイメージが具体的に抱けるよう、その都度写真パネルを見せる。</p> <p>・段落ごとに何について書かれていたかを押さえる。</p>
<p>●形式段落、③～⑥の内容についてまとめカードに記入する。</p>	<p>・教科書の本文にしたがって、段落の中心語句や文をとらえ、叙述に即してまとめカードに記入させる。</p> <p>・なかなか書き込めない児童には、黒板や教科書を見て記入させるようにする。</p> <p>・早く終わった児童には、本文のつづき読みをさせる。</p> <p>□段落の中心となる語句や文をとらえて、読み取りカードに記入することができる。</p>
<p>●形式段落、③～⑥を音読する。</p>	<p>・最初と同様、段落ごとに、つながりのお祭りの何のことにについて書かれているかを考えながら読むようにする。</p>

【板書計画】

<p>④ じゅんぴ</p> <p>○お年よりたち</p> <p>○稲わら</p> <p>○細いつな</p> <p>○ぐみ</p>		<p>③ 段落の本文</p>	<p>つな引きのお祭り</p> <p>刈和野のつな引き</p> <p>それぞれの段落は何について書かれているでしょうか。</p> <p>「手がかりとなるキーワードを探そう」</p>
<p>⑤ 大づな</p> <p>○上町↓「おづな」</p> <p>○下町↓「めづな」</p> <p>○中づな</p>			
<p>⑥ 大づな</p> <p>○大ぜいの力</p> <p>○直径→約八十センチメートル</p> <p>○長さ……「おづな」→六十四メートル</p> <p>「めづな」→五十メートル</p>		<p>写真パネル</p>	

\* 研究授業の際には、座席表をつける。